

<b>シアゾファミド・TPN 水和剤 ドーシャスフロアブル</b>	<b>取扱メーカー：</b> 石原，ホクサン  <b>原体メーカー：</b> 石原産業，エス・ディー・エス
<b>成分：</b> シアゾファミド〔シアゾイミダゾール系〕……………3.2% TPN〔有機塩素系 PRTR・1 種〕……………40.0%	<b>性状：</b> 類白色水和性粘稠懸濁液体 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

### 【品目特性】……………

●べと病と疫病に高い効果を示すシアゾファミドと、幅広い病害に安定した効果を発揮する TPN の混合剤で、べと病や疫病に加え、他病害が同時発生する場面での基幹防除やローテーション防除の主力剤になる。

●既存剤とは作用機作が異なるため、既存剤の耐性菌にも有効なシアゾファミドと、長年使用でも耐性菌の発生が見られない TPN との混合剤であることから耐性菌管理に有効である。

●高い予防効果を有しており、さらに残効性、耐雨性に優れているため、圃場で安定した効果が期待できる。

●シアゾファミドの胞子のう形成阻害効果により、圃場全体の菌密度低下効果を示し、一般的な予防効果を越えた防除効果を示す。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 予防効果が主体のため、発病初期から使用する。
- 散布ムラのないよう葉裏にも丁寧に散布する。
- 耐性菌対策のため、他剤とローテーションで使うことが望ましい。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 使用前に容器をよく振る。
- ぶどうに使用する場合、幼果期（あずき大）以降の散布は、果粉の溶脱、品種によっては果実に薬害を生じるおそれがあるので、落花直後までに使用する。
- 無袋栽培のネクタリンに使用する場合、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、開花期以降の散布はさける。
- 適用作物（ぶどう）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

### 【安全対策上の注意】……………

- 魚類に強い影響を及ぼすおそれがあるので特に注意。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】.....

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	シアゾファミドを含む農 薬の総使用回数	TPNを含む農 薬の総使用回数
ぶ ど う	べと病 晩腐病 黒とう病	2000倍	200～700 ℓ	60日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内 (休眠期は 1回以内)
も も ネクタリン	黒星病	1000倍			2回以内		2回以内	6回以内 2回以内
き ゆ う り	べと病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 黒星病		150～300 ℓ	前日まで	4回以内		4回以内	10回以内 (土壌灌注は2 回以内、散布 及び常温煙霧 及びくん煙及 びエアゾル剤 の噴射は合計 8回以内)
メ ロ ン	べと病 つる枯病 うどんこ病			3日前まで				5回以内
す い か	褐色腐敗病 炭疽病 つる枯病							
ト マ ト	疫病 葉かび病 輪紋病		前日まで	2回以内	6回以内 (土壌灌注は 2回以内、散 布及びくん煙 及びエアゾル 剤の噴射は合 計4回以内)			
な す	褐色腐敗病 黒枯病		4回以内					
たまねぎ	べと病 灰色かび病	6回以内						
は く さい	べと病 白さび病 黒斑病 白斑病	100～300 ℓ	7日前まで	3回以内	4回以内		3回以内 (は種又は定植 前の土壌混和は 1回以内、散布 は2回以内)	
ピーマン	疫病 斑点病		前日まで				3回以内	3回以内
ね ぎ	べと病 黒斑病		14日前まで	4回以内 (土壌灌注は 1回以内、散 布は3回以内)				
レ タ ス	べと病 すそ枯病			3回以内	5回以内 (土壌灌注は 2回以内、散 布は3回以内)			